

# 県立稲取高等学校 (令和元年・2年度人権教育研究指定)

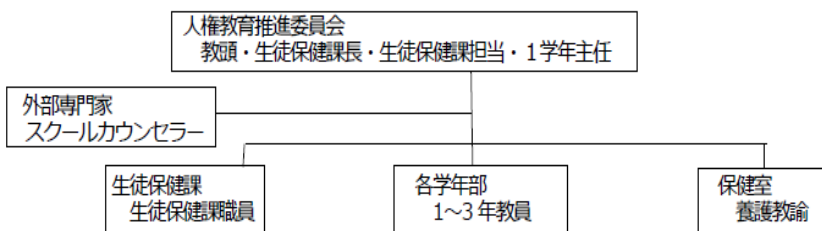
## 1 研究主題

「相手の立場や考えを尊重した行動をとることができる生徒の育成～人とのかかわりを通して～」

## 2 研究主題設定の理由

伊豆東海岸の地域に密着した高等学校であり、生徒間には入学当初から、既に、ある程度の固着化した人間関係ができ上がっている。それは時に、クラスメートのお互いの良さに気付く機会や経験を逸してしまうことにつながったり、閉ざされた社会の中で新しい人間関係を築くことが不得手となることにつながったりしているのではないかと懸念があった。また、他者の人権に配慮を欠く行動をとる生徒や、それに伴う人間関係のトラブルが多々あった。こうした課題を解決するため、本研究事業を通じ、相手の立場や考えを尊重した行動ができる生徒育成を目指すプログラムを作成していきたいと考えた。

## 3 研究の推進体制



## 4 研究の内容

「令和元年度・2年度事業プログラムの計画と実践」をもとに、「事業検証提案プログラム」を作成した。

- ① 研究の「3つの柱」に沿って事業プログラムを作成  
3つの柱「専門家・地域との連携」「校内研修の充実」「行事や部活動を通じた人間関係作り」に沿って事業プログラムを分類した。
- ② 県教育委員会人権教育目標の3つの重点から各プログラムを作成
- ③ 事業プログラム作成の視点及びポイント
  - ・年度当初に、外部専門家より、人権に配慮した人間関係づくりのために必要な行動や配慮について教員・生徒が研修を受けた。
  - ・校内研修で学んだ教職員の人権感覚向上に関することについては、授業、学校行事、部活動等、学校教育におけるすべての活動で実践している。また、既存の講座事業についても人権教育的な視点から見直しを図った。

## 5 2年間の成果

### ① 生徒指導に関連する成果

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1年次生徒指導件数(件)	7	3	4	0
1年次出席率(%)	98.4	98.6	98.3	99.6

### ② 人権教育に関連するアンケート結果の成果(一部抜粋)

	項目	令和元年度 (%)	令和2年度 (%)
生徒	「人権」に関する知識がある	26.3	34.3
	相手の意見に耳を傾けることができる	39.4	40.8
教職員	間違いや失敗を嘲笑する子どもを見逃さない	85.0	95.0
	丁寧な言葉遣いをし、子どもの模範となっている	50.0	77.0



## 6 課題及び今後の取組

- ① 人権的視点からの校則の見直し  
制服のリニューアル(女子のスラックス選択)を令和5年度入学生を対象に行えるように準備する。
- ② この2年間の取り組みを継続し、教育活動全体を人権教育の視点で再度見直し、人権の視点と結びつけた取組を増やしていく。